

道

2023・3・8

通信 No 1723



《本日の練習 6時～8時半》
小坂先生 二宮先生 3部

《3月15日の練習 6時～8時半》
清水先生 小坂先生 1部

場所：磯子社会教育コーナー アートルーム

ミツマタ

《54周年 演奏曲紹介 3部 No1》

～キエフの鳥の歌～

邦題「キエフの鳥の歌」はウクライナ語原題では Соловіна пісня「夜鶯の歌」です。ウクライナでは伝説の鳥が村々を訪れ幸せをもたらして去っていくという古い言い伝えがあり、軒下に鳥の木彫りのレリーフが飾られている風景が見られます。

この曲は、北海道合唱団が 1984 年に行なった海外公演の際、キエフ訪問歓迎会において民族楽器バンドウーラの弾き語りで紹介されたものです。北海道合唱団の指導者(当時)木内宏治さんによる訳詞。

～二つの岸～

川の兩岸のように結ぶことのない恋を歌っていますが別の意味もあります。オデッサが舞台となっている映画「渇き」(1959 年)の挿入歌で、ナチスに占領された取水地の奪還に向かう恋人に敵の接近を知らせる合図としてマーシャが歌っています。マーシャは今、どうしているのでしょうか。

～わが想いわが詩(うた)～

「広きドニエプルの嵐」と同じ詩人 T.シエフチェンコ(1814～1861)の詩によるものです。シエフチェンコは帝政ロシアの下、ウクライナ、キエフの農奴の子として生まれましたが、後に画家・詩人となりウクライナ民族の英雄となりました。反帝政的な詩の内容などから 10 年間の流刑生活を送っています。ロシア帝国によるウクライナ語使用禁止への抵抗、祖国ウクライナへの熱い想いを歌っています。

尚、この演奏曲紹介はプログラム掲載を目的にしていますので、修正やコメントなどありましたらおしらせください

《会議のお知らせ》

3月15日(水) 4時00分～

指揮者・演出との打ち合わせ

県民サポートセンター

3月22日(水) 3時00分～

プログラム委員会

県民サポートセンター